

公表

事業所における自己評価総括表（放デイ）

○事業所名	こども発達・子育て支援センター わくわくかん			
○保護者評価実施期間	令和7年1月10日（金）		～	令和7年1月24日（金）
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	46	（回答者数）	40
○従業者評価実施期間	令和7年1月10日（金）		～	令和7年1月24日（金）
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月27日(木)			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動等のスペースを十分に確保し、季節ごとの行事等様々な活動や遊びを提供している	室内には広いホールがあり、雨の日でも思いきり走り回って遊べたり、トランポリンやスイングホース等感覚統合や体幹・身体能力を高める遊具を設置している。また、園庭や芝生では野球やサッカー、カートに乗る等の遊びもできる。	思いきり身体を動かして心身のリフレッシュをするだけでなく、季節に応じた行事活動も大切にしながら、子どもの興味や関心の幅を広げたり、好きなことや得意なことに繋がられるよう活動内容を工夫していく。
2	配置基準よりも多くの職員、様々な職種の職員を配置し、利用児に寄り添った、丁寧な支援を心掛けている	保育士や児童指導員だけでなく、PTや看護師、公認心理士等様々な職種の職員が配置されていることで、様々な立場から子ども達との関わりや発達支援を行えるよう、振り返りや話し合いを密に行っている。	今後も様々な専門職の視点をもちより、子ども1人1人の特性に配慮し、発達段階に応じたきめ細やかな手厚い支援ができるよう、また、五臓分析シートを用いて支援の振り返りや検討を個々やチームで行てるよう努める。
3	保護者同士の連携ができる場を設けている	保護者同士が情報交換や相談ができるよう公認心理士がファシリテーターとして定期的に時間を設けていたり、茶話会を開催して繋がりが持てる場を提供している。	茶話会や見学会や子どもたちのこれからをイメージした勉強会も含め、行事等積極的に保護者さんかできたり、交流が持てる場を設定するなどし、保護者への周知に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望をたくさんいただいているが、1日10名という定員の都合上、全てのニーズにお応えすることが難しい状況にある	一度利用を開始すると契約終了になるケースはほとんどないことや、地域移行のを目指した対応が十分ではない為、年数が経つに連れて利用枠がほぼない状態になっている。	育成や児童クラブ等とも連携し、地域移行を意識した取り組みや関わりを進めていく。ニーズの対応に向けて、活動の在り方の検討をしていく
2	中高学生に対する支援スキルや活動内容が十分に提供できていない部分があるかもしれない	開設4年目で、子ども達の年齢も小学校中学年や高学年が中心である為、これから学年があがっていく上で職員のスキルの向上や年齢にあった活動内容の提供を検討する必要があると思う。	研修への参加や他事業所への見学等により職員個々の支援スキルを向上する。年齢に合わせた活動ができるようなグループや場所の準備等で対応する。
3	各種マニュアルの周知の不足	事故防止や緊急時対応、防犯や感染症対応等各種マニュアルを策定して、契約時や保護者会等で説明させていただいているが、内容量が多く細かい部分の説明はできていないかもしれない。	保護者会や行事の際にする場を設ける、ICTを活用する等、周知できるよう努めていく。